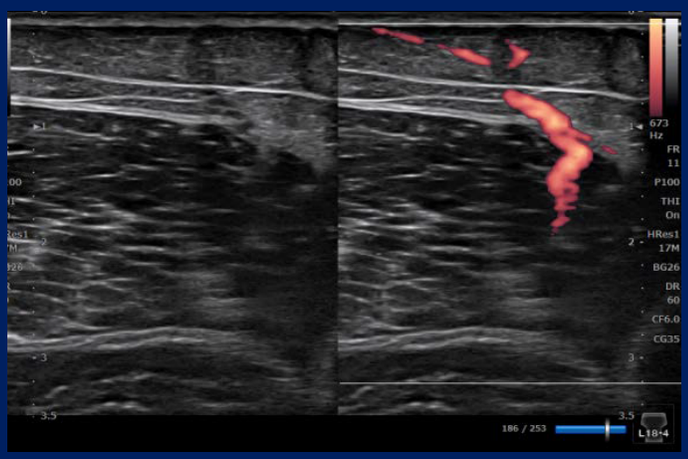
超音波画像診断装置（運動器エコー）導入!!

2018年9月より、超音波画像診断装置（以下、運動器エコー）を導入いたしました。
運動器エコーは、非侵襲性検査であり出血や痛みを伴わず、レントゲン検査と異なるため被爆の心配もなく安心・安全に検査を行うことができます。また、繰り返し検査を行うことができるため組織の治癒過程を正確に把握しながら治療・リハビリが行えます。
さらに運動器エコーは、軟部組織を動かしながら撮影できるため、動作痛の原因を検査したり組織の正常な回復を確認するという動作診断に役立てることができます。

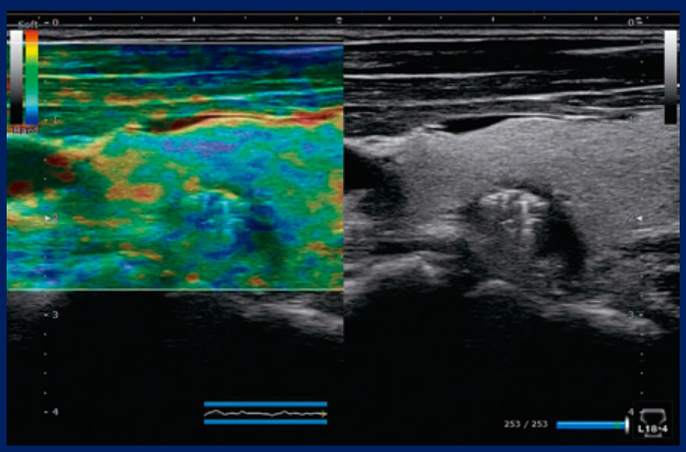
【Bモード】

白と黒のコントラストにより、骨表面・筋繊維・靭帯繊維を診ることができます。
靭帯の損傷、レントゲンに写らない骨折や成長期特有の疾患に対して非常に有効な検査となります。

損傷部位や炎症部位には通常と異なった異常血流が確認されます。炎症が起きているのかを把握することができ、炎症の強さを可視化することで治療方法の選択に役立てることができます。



【ドップラー】



【エラストグラフィ】

軟部組織の硬さをカラーと数値化することができます。治癒過程における修復具合を確認し、リハビリや治療に役立てる事ができます。